

青少年育成ひろしま情報誌

はぐくむ

はぐくもう。子どもも、私も。



2016.2
vol.9

- 平成27年度青少年育成県民運動推進大会
- 私たちの成果発表
夢配達人プロジェクト推進事業 10年間の取組みから
- 市町民会議ネットワーク研究・交流会
- いきいき地域活動紹介
- 「少年の主張」・中学生話し方大会2015
- 県民運動「あいさつ・声かけ」
- 青少年育成力レッジ「総合講座」の紹介



子ども・若者育成支援強調月間(11月)
～あいさつ・声かけ運動
街頭啓発キャンペーン～



公益社団法人 青少年育成広島県民会議

青少年育成の基本指針

(昭和52年6月1日青少年育成広島県民会議制定)

前 文

「青少年は日本の希望である」という言葉は、われわれの心を支えている標語である。ところが、青少年の非行が問題になると、明確な実施効果の見定めもつかぬままに、条例や法律の制定に期待の高まるのが実状である。しかし、青少年の非行が大人の生活の反映であるとするれば、青少年の健全育成は、大人の反省なしには実現しないであろう。大人がかつて青少年であつたように、青少年はやがて大人になるのである。人間の生涯は、多様な価値観の個性的選択による自己教育の連続であるといえよう。

ここに制定された青少年育成の基本指針は、ただ青少年育成のあり方を抽象的に示したものに過ぎない。それは、各地域の実状に応じて具体化されることが期待される。総括的にいえば、資源の乏しさを克服して、相当高い生活水準に到達している現代日本において、青少年は将来どのような展望をもつて進んだらよいか、これが最大の課題である。

われわれは、青少年の前途に幸福の「青い鳥」の夢を託したい。

青少年育成の基本指針

(個人) 一 個性の独自性に対する自覚にもとづき、その価値可能性を錬磨し、生涯教育の基礎をつくる。

(社会) 一 家庭の愛情にはぐくまれ、社会生活において、友情と連帯の意識を養う。

(自然) 一 国土の自然を愛護するとともに、地域社会の文化を尊重し、環境の教育的整備につとめる。

(世界) 一 諸民族の生活と文化を理解し、平和と親善の心をこめて、国際交流に寄与する。

(総括) 一 日々の生活のなかに、生きがいを求めてわが道を行き、一隅を照らす光となる。





02 平成27年度青少年育成県民運動推進大会 表彰

04 私たちの成果発表

夢配達人プロジェクト推進事業 10年間の取組みから

廿日市市立玖島小学校

「手づくりのペープサート(紙人形劇)を作って、地域を元気にしたい」

府中町立府中小学校

「被爆者の方のお話を聞いて、それを基に作曲家と一緒に歌を作って、
私たちが歌いたい」

福山市立鞆小学校

「木造船を作り、鞆の港に浮かべて乗ってみたい」

「福山の伝統工芸品である琴を作り、たくさんの人に聞いてもらいたい」



08 市町民会議ネットワーク研究・交流会

県民運動をより活発にしていくために

三次商工会議所青年部 梵 大英さん 講演

「三次の唐麺…若者たちの挑戦!」

18 いきいき地域活動紹介

安芸区青少年健全育成連絡協議会

青少年育成くまの町民会議

青少年育成大崎上島町民会議

青少年育成神石高原町民会議



22 「少年の主張」・中学生話し方大会2015

第37回「少年の主張」広島県大会

第49回 中学生話し方広島大会

広島県知事賞・内閣総理大臣賞 受賞

広島市立国泰寺中学校2年 藤井 志穂さん



24 県民運動「あいさつ・声かけ」

～あいさつ・声かけ運動の広がりを目指して～

26 青少年育成カレッジ「総合講座」の紹介

県立広島大学保健福祉学部 作業療法学科 教授

県立広島大学附属診療センター長・小児科医師

林 優子さん

県立広島大学保健福祉学部 作業療法学科 教授

作業療法士

土田 玲子さん



はぐくむ vol.9 平成28(2016)年2月1日 発行

発行人／(公社) 青少年育成広島県民会議

企画・編集／(公社) 青少年育成広島県民会議

〒730-8511 広島市中区基町10-52 広島県環境県民局県民活動課内

TEL:082-513-2742 FAX:082-511-2173

URL: <http://www.hiro-payd.or.jp>

編集協力／イニシャルコンテンツ



平成27年度 青少年育成県民運動推進大会

平成27年度 青少年育成県民運動推進大会

主催：公益社団法人青少年育成広島県民会議

夢配達人プロジェクト推進事業から
廿日市市立玖島小学校
府中町立府中小学校
福山市立鞆小学校

平成27年10月31日（土）、
広島市中区大手町の広島
県民文化センターで、青
少年育成県民運動推進大
会を開催しました。



大会次第

【開 会】

- ◎開会あいさつ
(公社) 青少年育成広島県民会議会長
- ◎来賓祝辞
広島県知事、広島県議会議長
- ◎表彰
青少年健全育成功労者等知事表彰
「家庭の日」に関する作品の県知事表彰

【わたしたちの成果発表】

- 夢配達人プロジェクト推進事業から
発表:廿日市市立玖島小学校
「手づくりのペープサート(紙人形劇)を作って、
地域を元気にしたい」
- 発表:府中町立府中小学校
「被爆者の方のお話を聞いて、それを基に作曲
家と一緒に歌を作って、私たちが歌いたい」
- 発表:福山市立鞆小学校
「木造船を作り、鞆の港に浮かべて乗ってみたい」
「福山の伝統工芸品である琴を作り、たくさん
の人に聞いてもらいたい」

【閉 会】



式典では、主催者を代表して、
公益社団法人青少年育成広島県
民会議 上田宗岡会長が開会の
あいさつをしました。



大会の終わりに当たり、(公社)青少年育成広島県民会議の山内吉治副会長があいさつ。全日程を無事に終了し、青少年育成県民運動推進大会を閉会しました。

開会のあいさつの後、広島県知事表彰を行いました。永年にわたり青少年の健全育成に力を尽くした方々や団体、また模範的な活動を行っている団体、個人を表彰しました。

また、「家庭の日」をテーマに、県内の小・中学生を対象に作文・図画を募集していますが、今年度は小学校70校、中学校43校から、作文と図画を合わせて2,397点の応募がありました。その中で特選に選ばれた4名が県知事賞を受賞しました。

平成27年度青少年健全育成功労者等知事表彰受賞者名簿

(50音順、敬称略)

(青少年健全育成功労者27名)

浅田洋司(広島市) 石本瑠里子(広島市) 今田悦子(広島市) 大石信洋(広島市) 大田貞男(尾道市) 岡本康成(福山市)
片岡 久(三次市) 河上洋子(広島市) 菊川光子(広島市) 後藤正弘(大竹市) 佐々木正義(広島市) 新谷真理子(広島市)
杉原 潔(尾道市) 瀬戸昇三(三次市) 武田民政(広島市) 田代恭子(広島市) 田村新一(尾道市) 野中則子(広島市)
則頭悦子(広島市) 堀江正憲(広島市) 松下敬之(広島市) 元岡浩子(広島市) 森 廣行(府中市) 森田佐紀子(広島市)
山下寛司(東広島市) 山野節子(広島市) 和気啓子(広島市)

(育成功労団体3団体)

久佐剣道教室(府中市) 坂卓球スポーツ少年団(坂町) 坂町女性会連絡協議会(坂町)

(模範青少年5名)

有田 望(尾道市) 石井寿美礼(福山市)
小田美里(府中市) 原口 優(廿日市市)
平本淳子(福山市)

(模範活動団体1団体)

若鯉会(広島市)



平成27年度「家庭の日」に関する作品の知事表彰受賞者名簿

(作文の部)

特 選 広島大学附属三原小学校1年 野間大生樹さん
特 選 呉市立宮原小学校6年 中 あやのさん
特 選 大竹市立玖波中学校3年 藤村 嘉希さん

(図画の部)

特 選 東広島市立寺西小学校5年 塩竹 七海人さん



青少年育成県民運動推進大会
～夢配達人プロジェクト推進事業 10年間の取り組みから～

わたしたちの成果発表



平成27年10月31日(土)に開催された青少年育成県民運動推進大会「わたしたちの成果発表」で報告された4つの事例を紹介。夢配達人プロジェクトを通じて夢を叶えた先輩たちが、「プロジェクトをやったよかった!」と大きくなった自分を振り返り、語ります。

廿日市市立玖島小学校
(平成23年度実現)
「手づくりペープサート
(紙人形劇)を作って、地
域を元気にしたい」

紙人形劇の上演が行われた後、当時、玖島小学校で活動を担当していた木村先生により発表がありました。

多くの人の協力のもとに実現した、手づくりのペープサート。5年前に夢配達人プロジェクト事業でお世話になつて作った影絵劇は、玖島地域の集会所を回ったり、統合先の他校の小学生の前で発表したりしてきました。地域の集会所には3年かけて、全部の方には2回、3回と見ていただいた方もたくさんいらっしゃいます。夢配達人の絵本作家の宮西さん、「劇団かかし座」の山下さんたちは、事業後も

学校に来ていただき交流が続いておりましたが、残念ながら玖島小学校は今年の3月末で、閉校となりました。

「もつ影絵はおしまい」と思っていたところでしたが、今回の発表に向けて、地域のコミュニティが中心となり、大人も参加して影絵を引き継いでくださいました。「玖島小学校の閉校で影絵もなくなるのかなと思っていましたが、今回のような機会をいただき、子どもたちと一緒に生懸命練習してきました。今日はとてもよくがんばったと思います。これからも地域活動として、町づくりに役立てていきたいと思っています」と玖島地区推進協議会の会長の矢口さん。「今日はワニを演じたのですが、なんとかできました。これからも地域の元気を与えるためにがんばっていききたいと思います」と、当時のPTA会長の畠村さん。そして玖島地区の文化部



府中町立府中小学校
(平成22年度実現)
「被爆者の方のお話しを
聞いて、それを基に作曲家
と一緒に歌を作って、私た
ちが歌いたい」

今回、府中小学校で夢配達人プロ



「コミュニティ部で郵便局長の山崎さんは「子どもたちは本当に素晴らしいものを残してくれたと思います。これからも、町づくりにかしたい」と公演を締めくくりました。」

ジエクトが続いてきた歴史を、当時実際に歌の作成に関わった先輩方のインタビューを交えての報告と「あの夏を忘れない」の合唱で発表します。

一緒に歌を作ってくれた作曲家の先生は、府中小学校の卒業生であり、ミュージシャン・俳優として活躍されている吉川晃司さんをお願いしました。私たちは歌詞を作るのが初めてで、何をどのようにしてよいかわからず、悩んでいるとき吉川さんから「戦争反対ということを書いて、今のあたりまえの生活を見直すこと。そこから平和について考えていくことで未永く広く親しまれる歌に」とアドバイスいただきました。その後、被爆体験を聞いたり、平和記念式典に参加したりして原爆に対する理解を深め、具体的な言葉を各自がノートに書き留めていきました。それをみんなで話しあいながら、歌詞を完成させていきました。

○一緒に曲を作った、吉川晃司さんの印象は？

●初めてお会いしたときはオーラに圧倒されて、あまり話せなかったです。でも何度も小学校に足を運んでくださり、優しい言葉をかけてくださったので、とても親しみやす



く素敵の方だと思いました。

●吉川さんにはまるで友達のように気さくに話かけていただいて、一緒に歌を作るのが楽しくなってきました。

○歌詞を作っていく中で大変だったことや工夫したことは？

●大人のカッコいい言葉を使わず、自分自身からでる言葉で作るというのが目標だったので、それが大変で何度も書き直しました。工夫したことは、被爆体験の話をたくさん聞いた中で、「今わたしたちが生きていることはあたりまえではなく、ありがたい」ということがわ

かったの、それをどう歌詞にいれたらよいか考えたことです。

吉川さんに「みんなが作った言葉がここに入っているよ」と曲を作ってもらい、歌は全国へ発信することもできました。それから毎年全校児童で歌をうたい継いでいく中で、平和の尊さを実感しています。これからも先輩たちの意志を引き継ぎ、平和への思いを歌い続けていきたいと思っています。





福山市立鞆小学校①
(平成18年度実現)
**「木造船を作り、鞆の港に
浮かべて乗ってみたい」**

当時、「ザ・鞆小」というグループで代表をつとめていた岡本和輝です。私が夢配達人プロジェクトに応募した夢は「木造船の船大工さんに手伝ってもらい、人が乗れる木造船を作り、歴史ある鞆の港に浮かべて乗ってみたい」というものでした。

プロジェクトは5人のメンバーの他、学校単位で活動しました。最初に倉橋の造船歴史館に既存の木造船を見学に行きました。そして船大工さんに教えてもらいながら、船の設計図を描き、たくさんの方の協力を得て製作してしました。「鞆小ドリームGO」は木造船なので、外側を樹脂でコーティングするの子どもたちで少しずつ行っていました。進水式では多くの方が見守る中、船大工さんが航行安全を願ってご祈りの儀をとり行い、お神酒で船を清めます。また式典では5年生が鞆に古くから伝わる大漁節を演奏してくれました。そして、約1キロメートル離れた仙酔島まで航行。ただ、当日は地元漁師さんの天気予報では午後から雨。その予想どおり、雲行きが怪しくなり大雨になりました。

参加者はこのことから、昔の知恵や経験からくる勘に驚かされたのを覚えています。

各工程ではプロジェクトメンバーの枠を超えて多くの子どもたちが関わりました。この活動の中で、数々の伝統文化や地域文化との出会いがありました。またプロジェクトの活動により地域との接点が増え、地元の歴史・文化の理解を深めることができました。

**ひとつの夢の実現が
さらなる夢への挑戦へ**

学校の授業ではなかなか勉強できないことが学べたり、貴重な体験ができたりと夢配達人プロジェクトの活動が最高の課外授業となりました。私が応募した夢から始まりましたが、実行委員会の方を中心に次第に町中にプロジェクトのことが知れ渡り、いつの間にか木造船製作がひとつのムーブメントまで発展しました。

私は活動を通じ、日本の伝統文化により興味をもちました。倉橋の造船歴史館では、宮島管絃祭で使用する木造船の展示に、雅楽が演奏される様子が流れていたのですが、今では私が雅楽に携わり、海外でも演奏する機会にも恵まれました。今後は学んだ日本の文化や伝統を海外へも伝えたいと思っています。





福山市立鞆小学校②
(平成23年度実現)
「福山の伝統工芸品である琴を作り、たくさんの人に聞いてもらいたい」

この夢に応募した、福山市立福山高校一年の川崎淳之介です。みんなと夢の実現に取り組めたことを心から感謝しています。当時小学5年生だった私は、高校生となり新たな夢に向かっています。

私が琴に興味をもったのは2歳の頃。母が琴を弾いていたこともあり、兄と一緒に練習したり、チームを組んで演奏を続けていました。小学4年生のときに琴クラブに入部、たくさんの女子の中で恥ずかしい気持ちがあったのを覚えています。しかし母がクラブの指導者でもあり、学校でも琴の演奏を続けたいという思いから練習に励みました。地域のイベントなど様々な場所で演奏もしました。

幼い頃から木を使ったものづくりに興味があり、小学5年生のときに「自分の琴を作ってみよう」という夢が見つかり、夢プロジェクトに応募したのです。

夢配達人のもと、琴の製造がはじまりました。実際に琴職人さんのサ



ポートを受け、熟練の職人技を目の当たりにしながら三面の琴を完成させました。母に演奏を教わり、みんなと演奏もしました。そして黙々と作業に向かう職人がカッコよく、職人になるという新たな夢をもったのです。その後私はみんなと違う中学校へ進学したのですが、小学生のときにプロジェクトで一緒に取り組んだことで、離れていてもずっと仲間だという強い絆でつながっているという思いでいました。

**夢をもち、チャレンジする
面白さを伝えていきたい**

現在私は高校生になり、将来のことを考えるうちに、小学校の先生になりたいという夢が生まれしました。母が小学生を教えている姿と自分が小学生のときに教えてもらったことが重なってきたからです。もちろん、夢プロジェクトに参加したことも多いに関係があり、先生になってもいいよ。いろんなことにチャレンジしよう！と子どもたちに声をかけたいと思っています。私自身が夢を叶えるために積みあげたことや努力することの面白さをぜひ子どもたちに伝えていきたいのです。また教育を通して、日本の伝統文化を伝えていきたいとも思っています。鞆の浦で育った私がたくさんの地域の方に支えてもらっていることに感謝するばかりです。いつか「生まれ育った故郷、いいじゃん広島」と世界中の人に故郷の文化を発信していきたいと思っています。



平成27年度 市町民会議ネットワーク 研究・交流会



県民運動をより活発にしていくなために

地域における機能的な運動組織である各市町民会議活動の普及促進を図るために、当県民会議では毎年、市町民会議ネットワーク研究・交流会を開催しています。今年度は9月11日（金）、三次市民ホール きりりりて実施。各市町民会議の関係者・青少年育成県民運動実践委員・青少年育成地域リーダーが集合しました。



【講演会】 「三次の唐麺」 若者たちの挑戦！」

三次商工会議所青年部
梵大英さん

私は浄土真宗本願寺派のお寺の専法寺という所で、副住職を務めさせていただいております。お寺の中でさまざまな役割がございますが、やはり私としては町に出て、町の方々と日常の中でさまざまな携わりを共にさせていただくことが、私個人としての大きな役割の一つだと思って、さまざまな活動

をさせていただいております。

その一つに、三次商工会議所に所属をさせていただいており、その中で45歳未満の青年、若者でつくる組織の青年部に所属しております。お寺が商工会議所に入るというのが、僕としてはいまいよく分からなかったのですが、その商工会議所の方に「まあ、おるんじゃえ入りんさい」と。商工会議所は経済団体ですから、「なぜ、お寺が入るんですか。お寺は経済じゃないんですか」と言ったら、「まあ、そんな時代じゃない」と商工会議所の専務に言われて、どんな時代なのかよく分からないまま今もいます。

そんな中で青年部に入らせていただいて、三次市内で活躍されている経営者の方々、将来の経営者の方々と共に活動しております中の一つが、この三次唐麺焼プロジェクトになります。三次唐麺焼は、認知度としてはまだまだこれからのものですが、少しだけ、この三次唐麺焼についてご説明をさせていただきます。

何かせにゃいけんじやろう 企画スタート・加盟店募集！

三次のご当地のお好み焼きといえば三次唐麺焼（写真①）になりますが、見た目はまったく普通の広島風のお好み焼きです。ただ、何がご当地なのかというと、三次には実はカープソースさんの本社がございまして、一般的には発売されていない辛口の業務用のソースがあるのですが、これを使っております。もう一つは、中に入るそば、麺ですね。これは三次市十日市の江草商店さんでもともと作られていた辛口の麺、唐麺というものを使わせていただいて、この二つを組み合わせたお好み焼きを三次唐麺焼として各店舗で販売しております。

この三次唐麺焼を推進していこうと



（写真①）三次唐麺焼

なったのは、とある飲み会の席で、何かせにゃあいけんじゃろう、酒を飲み交わしながら何かしようやという一つの盛り上がりがありまして、数人で企画書を立てて、皆さんに提案をさせていただいてスタートさせたのが、2012年の秋だったと思います。

その中で、やはり私たちだけでは、どうしても推進することはできません。その当時、三次市内には35店舗のお好み焼き屋さんが存在してありまして、ご協力をいただいて推進していくのではないかとということで、2012年の秋から2013年の春ごろまでは、その仕掛けづくりをしてありました。

先ほど、地元産のソースと地元産の麵と申し上げましたが、やはり地元にある資源を大切に扱わせていただく。何か新しいものを一から、ゼロから作るのではなく、今、既にあるものを、あらためて私たちがピックアップして使わせていただくという概念が、そこに一つあります。

皆さん、B級グルメとかはご存じかと思いますが。よくB級グルメのフェスティバルとかいろいろありますが、やはり外に向けて、あの場面では出展をされて、外の方々に観光で来てもらおう、外の方々にどんどん食べてもらおうという仕掛けづくりをされている。

ただ、私たちの場合は、その当時、やはり三次市民が、それこそ子どもたち

からおじいちゃん、おばあちゃんまでが愛して、「うちの町にはおいしいお好み焼きがあるけえ食べに来んさいや」というせりふが言えるように、言っていただけるように、まず地元の方々に認知をしていただくということと、わりと外向きではなく中向きにいろいろと戦略を練り、三次唐麵焼の宣伝をしてきました。

食べていたいた方はいらつしやいますか。ありがとございます。

食べていたいた方は分かるかと思いますが、辛いのですが、そこまで辛くはないです。この後も試食用が来るという話は聞いておりますが、めっちゃ辛いというわけではない。程よい辛さ、ちよつとい辛さ、多くの方に食べていただける、ちよつとい辛さになっております。

具体的に話を進めていく前に、今ここに商標登録証(写真②)がありますが、この「三次唐麵焼」というネーミングに関しては、三次商工会議所で商標登録をしております。というのは、これを使つてはいけないというところではなく、



(写真②)商標登録証

やはり商工会議所という立場で、これを確保していくことで、たくさんの方々に使いやすい環境、皆さんに扱っていただきやすい環境をつくるということとで商標登録をしております。

2012年秋からいろいろと練っており、今思えば2年前、3年前の話ですが、企画書を基に夜中までいろいろ話し合いが続きまして。私は通常は僧侶という立場で、もちろん夕方までしっかりと仕事がありますし、それ以外にも自動車の板金屋さんとか、ホームページのプログラマーさんだったり、それぞれいろいろな業種の皆さんが集まっている団体が青年部ですので、みんな仕事が終わってから集まってきました。

仕事が終わって集まるのは7時半ぐらいからですので、それからミーティングをすると、毎回12時、1時ごろまで続いたこともありまして、喧々諤々(けんけんがくがくの会になることもありまして。今思えば、それまであまりぶつかり合いというものがなかったのだ、そうやって腹を割って話せたことが、今のこの一つのムーブメントにつながっているのではないかと思います。

企画がいよいよスタートするぞというタイミングになって、先ほど申し上げましたように、加盟店の方、地元のお好み焼き屋さんにも入っていただきたいということ、皆さんに説明会を行

い、35店舗のうち3分の1ぐらいの数の10店舗からスタートしました。

というのも、ぜひやってもらいたいのですが、無理はしてもらいたくない、できるところからやっていただきたいということ、やっていただけたところに手を挙げていただいて、ちよつとやってみようかなという皆さんにスタートしていただきました。

今は3年たつて、ようやく30店舗に増えまして、三次市内各所で食べられるようにはなりました。普通のお好み焼き屋さんでも食べていただけるのですが、中にはお総菜コーナーで三次唐麵焼を置いていたり、広島市内のマダムジョイさん、広電ストアさんでは、各店舗にこの三次唐麵焼を置いていただいたりという展開になっております。三次フードセンターさんでは、お総菜コーナーに置いてあります。実は今の時期、お総菜で三次唐麵焼がよく出るそうです。特に土日。なぜ出るのかと聞くと、この週末に若者が帰ってくる。なぜ帰ってくるかというと、おじいちゃん、おばあちゃんの農作業を手伝いに、田んぼの稲刈りを手伝いに来る。その時に、「まあ、せっかくじゃけえ三次唐麵焼を食べようや」ということで、この農繁期の時期にはお総菜のコーナーですごく売れるそうです。非常にありがたいことだなと思っております。



(写真③)

タクシーの運転手さんのすぐ後ろのガラス

また、タクシートの運転手さんのすぐ後ろのガラスの所にマップを貼ってもらい(写真③)、お客さまに見えらるようにはチラシを置いていただいております。というのは、三次は、昨年までも結構多かったのですが、中国やまなみ街道が開通するまで、工事関係者の皆さまが三次市内にそのまま泊まられて、夜はどこかでご飯を食べてという方々が結構多かったんですね。それでホテルの方に聞くと、「フロントで『どこに行ったらおいしいものが食べられる?』とよく聞かれると。ですから、ホテルのフロントにもこの地図は置いてありまして、やはり皆さん、お酒を飲まれるので、ホテルからおいしい所まではタクシーで行かれるということで、タクシー会社さんもチラシを置いておきたいと。この協力体制が徐々に、加盟店が増えるとともに増えていきました。それから、関係のコンクリート会社



さんのミキサー車には「三次唐焼焼」と書いてあったり、運送会社のトラックには三次唐焼焼のチラシがそのまま印刷してあったり、各方面に、僕らの思いとどうか、応援しようやという流れが伝わっていききました。

ただ、僕たちはあまり出店をしません。出店依頼もよくいただき大変申し訳なく思っているのですが、お断りするほうが多く、年に4回ぐらいしか出店しません。隣町にある庄原市さんでも庄原焼きというおいしいお好み焼きがありますが、庄原焼きさんは精力的にいろいろな所に行き、いろいろな宣伝をされていて、非常に前向きにされている。そこ比べても、やはり私たちは非常に少ない出店回数になります。というのも、なかなか全員のスケジュールが揃わないのもありますし、僕らとしては、出店というよりも、やはりこの三次唐焼焼は来て食べていただく

きたい。出先で食べていただいて、そこで完結するのではなく、やはり三次までわざわざ来て食べていただきたいという思いがありまして、あまり外で売って食べていただくことはやっておりません。

「引っかかりをつくって、来てもらう」 「出店中心ではなく、 メディアプロモーション」

ただ、その代わり、媒体ですね、メディアプロモーションを積極的に行っております。今日も入っているしやいますが、地元のテレビ局さんだったり、ケーブルテレビさんだったり、中国新聞さんだったり、NHKのBSの全国放送で取り上げていただいたり、地元の情報番組に取り上げていただいたりしています。こちらのほうから各メディアにアプローチをかけて、情報提供をさせていただき、グルメコーナーとか情報コーナーのときには、「ああ、そういえば三次唐焼焼というのがあったな」という引っかかりをつくって、来ていただけるようにする。

ただ、来ていただいたものを受けるというだけではなく、こちらから提案資料もお送りしておいて、何か機会があれば、ぜひ取り上げてくださいなという流れにしております。BSさんとかホームテレビさんなどもそのパターン

だったのですが、どちらかというと、テレビ、新聞、ラジオ、インターネット、そういったところにアプローチをかけてさせていただくようにしています。

ですから出店よりも、どちらかというと紙面だったり、そういうところで見ることが非常に多いのではないかと。特にBSはNHKの全国放送になりまして、再放送を含めて5〜6回、年末等に特集をしていただいたので、その放送後は北海道から沖縄まで、各方面からたくさんの方々に来ていただきました。全国ネットの放送は非常に効果があるということも、お店の人も感じられておられました。

三次出身カープの梵選手 「カープとのコラボ」

手前みそになりますが、梵英心という三次出身の選手がカープにおります。Mazda Zoom-Zoomスタジアムでは、毎年、選手プロデュースメニューというものが、各選手のご当地のおすすめメニューとか、マエケンのおすすめ何とかとかがいろいろやっているんです。梵君に、実は三次でこういうことをするんだけどプロデュースメニューにしてくれないかと青年部から打診をして、本人もそういうことであれば引き受けてくれました。

この前の年までは、よく分からない

ものをやっていたんです。とにかくよく分からない、本当にあなたはそれをおすすめしてるんか、というくらいのもをしていたのですが、せっかく三次の子なのだから三次のものをやってくれということ、このように取り上げていただきました。

ターゲットとしてカープファン、今はチケットが取れないくらいで、毎試合3万人以上の大観衆の中らしいのですが、去年、おとしぐらいから、そのブームがずっときており、カープファンの方にも知っていただく機会として取り上げてもらいました。

パリーグとの交流戦限定メニューになっていて、1カ月だけの限定メニューだったのですが、約1,500食出たのだですね。パリーグとの交流戦というのは、Mazda Zoom-Zoomスタジアムでは10試合くらいしかなかったのですが、その中で1,500食というのは、当時の前田智徳さんやマエケンの記録を抜いて、今でも断トツ1位と。そういうこともあって、今でも毎年、スタジアムでは三次唐焼焼をプロデュースメニューとして出しているにいます。そういった地元出身者にも協力をいただいて、外に向かってやったこともあります。

これはスタジアムでの出店風景(写真④)になりますが、なぜ、これをやっていたかというと、実は広島県で毎年



(写真④)ズムスタでの出店風景

「広島でつぱんグランプリ」という大会がありまして、それに出店するためのシミュレーションも兼ねていました。今年は休止になるのですが、第4回から三次も参加させていただきました。おいしさには自信がありましたし、やはり三次出身者の方が広島市内にも非常にたくさんいらっしゃるの、応援するよという声もたくさんいただいていた中で、絶対に優勝できると思って行ったんです。これは確実に優勝できると。

三次の方に見せる顔がない 〜広島でつぱんグランプリ

悔し涙の準優勝〜

実は「つぱんグランプリ」は、2日間の大会で約1万食近いものを焼き上

げなければいけない、支給しなければいけない。ですから、どうやったら早く、さらにはおいしいものが作れるかというところで、カープソースさんの倉庫にみんなで集まり、本当に夜中の1時、2時まで試行錯誤しました。

そういった苦労もありましたので、これは絶対にいけるだろうと高をくくって、その中には安易な考えもありましたし、それだけ自信もあったのですが、実際に戦ってみると、最終的には準優勝。私は、その当時38歳、だいたい20代〜40代のメンバーがいましたが、ほとんどの大人たちが悔し涙を流して、この三次まで帰ってきました。特にとある方は言いました。「三次の方に見せる顔がない」と。そこまでの思いを持って取り組んできたことだったので、非常に悔しい思いをして帰ってきました。違うメンバーからは、「大人になってこんなに涙を流すとは思わなかった」という一言がありました。やはり何かに向かって一生懸命にやっているのは、日々、誰もがやることだと思うのですが、大人になって一致団結して、違う業種の人間が同じことに向かっている、最後に同じような涙を流したというのは、準優勝でしたが、僕らの人生にとって非常に大きいものを得たのではないかなと思っています。

事業を応援する自販機 〜コカ・コーラ・ウエストさん とのコラボ〜

しかし、準優勝は準優勝です。1位にならないとどうしてもあまり取り上げていただけないし、非常に悔しい思いをした中でその年を越したわけですから、そんな時期にコカ・コーラ・ウエストさんとミーティングをかさねる中でご提案をいただきました。三次唐焼焼さんと言えば赤いでしょう。コカ・コーラの自動販売機も赤いんですよ。一緒に自動販売機を作ませんか。

いまだに三次市内でも、この自動販売機(写真⑤)から三次唐焼焼が出てくると思われている方がいらっしゃると思いますが、三次唐焼焼は出てきません。コカ・コーラの自動販売機です。今コカ・コーラ・ウエストさんでは、いろいろ



(写真⑤)コカ・コーラの自販機



(写真⑥)三匠

な事業を応援する自動販売機を展開されています。例えば、境港のほうでも境港を応援するような意味合いの自動販売機があったり、プロスポーツチームを応援するための自動販売機もあります。

この三次唐焼の自動販売機は、その売り上げの半分が設置場所の売り上げになり、残りの半分が三次唐焼普及PRのための事業費としていただける。これはありがたいかぎりなのですが、コカ・コーラさんから、このようなかたちで自分たちの事業費を捻出してみませんかというご提案をいただきました。

なおかつ、普通に自動販売機を置くとその経費を差し除いて、自動販売機の売り上げの100%が設置店に行くと、本来ならその普通の自動販売機を設置していただければいいのですが、「いやいや、三次唐焼を応援するけえ、うちは普通のコーラの自販機じゃなくて三次唐焼の自販機を置く」と言っているところがある。

これは先ほどの三次フードセンターですが、そついつとところが、今、三次市内で12〜13カ所くらい集まっております。徐々にそのエリアを広げております。事業費がないと何もできませんので、事業費の捻出の一つとして、ありがたく活用させていただいています。ぜひ、三次市関連の所にも置いていただければありがたいです。お願いします。

地元愛に支えられて

〜東京進出

(銀座TAU&恵比寿ぶち)

その中で、各方面に徐々に知れ渡ってきています。広島ブランドショップ、銀座のTAUさんの、2階のお好み焼き屋さん「三匠(さんしょ)」(写真⑥)さんでも三次唐焼を扱っていただいています。ほかのお好み焼きも通常のそば肉玉とかありますし、ご当地のお好み焼きはいろいろな所にあるのですが、唯一、三次唐焼だけをご当地のお好み焼きとして取り扱っていただいている。また、恵比寿にも地元出身の方がつくられたお好み焼き屋さん(写真⑦)があったりで、東京のほうでも三次唐焼が食べられるようになっております。向こうのスタッフの方に聞くと、やはり三次出身者、あとは広島出身者が定期的に顔を出してくれると。も



(写真⑦)恵比寿ぶち

ちろん売り上げとしてはいいんですが、何よりも広島出身の人たちが、少しふるさとのにおいを感じる場所に、そつやつとふるさとのものがあるというのは非常に喜ばれていると聞いております。そついつとことをお伺いしますと、もつともつと喜んでいただけるために何ができるかをいろいろ考えさせていただいている次第です。

悔し涙からうれし涙へ

〜「三次が優勝した!」〜

そつとつしましたら、「広島てっぱんグランプリ」は毎年1回あるものから、昨年の10月、また行われました。

僕はお寺なのですが、「お好み焼きが食べたいんですけど」と来られる方が何人かいらっしゃいます。「うち、お好み焼きは食べれるんですけど」と。

どうしても、よくご覧いただいている梵選手のお兄ちゃんが、三次唐焼というお好み焼きを売っているというイメージで、お寺にお好み焼きを食べに来る方もいらっしゃる。

ですから、私たちも存在自体をもう少ししっかりと出しながら、実は私たちは本業がある中で熱い思いを持って事業を進めているんだよという意味合いを込めて、それぞれの仕事風景の写真を撮らせてもらい、お好み焼きと自分たちの仕事に関連するキャッチコピーを付けたものを「広島てっぱんグランプリ」のPRとして、三次市内に貼らせていただきました。例えば分かりますのは、これは瓦屋さんですが、瓦屋さんが屋根に登られるときに写真を撮って、瓦屋さんはてっぱんにいきますので、「てっぺんに」というポスターにしたり、板金屋さん(写真⑧)では、車をいじっている姿を撮らせてもらって、車はスピードとクオリティー



(写真⑧) それぞれの本業の風景を題材にしたキャッチコピーのポスター

が大事で、お好み焼きもまったく同じなので「Speed & Quality」という言葉にしたり、少し面白いポスターを作って、三次市内に貼って宣伝をさせていただきます。

やはり昨年と同じような悔し涙は流したくない、今度はうれし涙にしたいということ、昨年以上に熱い議論を夜中まで交わしながら、練習を繰り返しました。かなり時間をかけて昨年の反省点を洗い出し、今年の方角性を見いだしました。もうぎりぎりでした。ね。焼く方法論、配る方法論が決まり、さらにそこには「おいしい」というものがついていないと駄目ですので、おいしいものを追及しました。

これは江草商店の工場風景(写真⑨)ですが、これは全部、三次唐焼が「広島てっぱんグランプリ」に出るときに



(写真⑨)江草商店の工場(唐焼)

必要な唐焼です。あそこにおばあちゃんが一人いらっしゃるのですが、おばあちゃんに頑張ってもらっていただいて、この写真を撮りながら私も涙が出そうになりました。

また、実際にスタートをするところ、トラックはミキサー車(写真⑩)ですが、広島てっぱんグランプリは広島市民球場跡地であったので、「原爆ドームの前を走っちゃうよ」と、広島市内に現場はないんですが、三次からわざわざ原爆ドームの前まで三次唐焼のミキサー車を走らせに来ていただきました。

そつした地元の方々の応援もかなりたくさんいただいて、横は神石高原町のブースでしたが、両方とも非常に長い列で、非常に混雑をした中で、投票も三次にたくさん入れていただいて、ほとんどがぶつちぎりの状態で優勝になり



(写真⑩)ミキサー車

ました。(写真⑪)

悔し涙はおとしでしたが、去年に關しては、うれし涙を通り越して、達成感の涙と言ったほうがいいと思います。が、それこそ30代、40代の男たちが抱き合って喜ぶ姿がいろいろな所で見られた大会でした。

さらに言うと、うちも娘が1人いるのですが、ほとんどの家族が来たのではないのでしょうか。うちの愚痴を言わせていただくと、2年前、三次唐焼がスタートしたぐらいは、嫁さんと大げんかしてたんなんです。仕事が終わった子どもを風呂に入れて、子どもと一緒に寝てほしいと、でも僕はそれをしなかったんです。しないというよりも、先ほどのように「唐焼に行かにはいいけん、唐焼に行かにはいいけん、今日も唐焼」。嫁さんからしたら唐焼は天敵みたいなものになりました。唐焼の会議が終わったり、出店の練習が終わって帰ってきたら大げんかになるんです。なぜ、そんなに唐焼が時間を取るのか分からないわけです。何をしているかも見えない。奥さんの言っていることも分からないでもない。僕も子どもと一緒にいたいし、そういう思いはありますが、今はこういう時期だからと。



(写真⑪)広島てっぱんグランプリ優勝

そういう時期があったにもかかわらず、僕の家に関しても、最後は家族がこの大会の応援をしにきてくれました。それは頑張っている後ろ姿を見てくれたのかなど。特に3歳、4歳の子もたちが「頑張つてー」という姿は、何か伝わったのかなと思います、うれしかったです。そのように、自分たちだけが頑張ったというよりも、地元の方々にも応援していただいたし、何よりも家族にその姿が伝わり、家族が応援してくれたというのは非常に大きな出来事でした。三次に帰ってきたら、三次唐焼優勝記念祝賀会をしていただきました。何にしても三次が優勝したというのは、ほとんど聞いたことがなかったと思います。この優勝は、僕は将来の三次

にとつて非常に大きいものが生み出せたと思うんですね。やはり初めて味わう感動というのが三次唐麵焼を通じてありました。この祝賀会にいらっしゃる方々の中でも、本当に大人の方々が、涙を流しながら喜んでくださいました。

また、広島県の「地域の宝 チャレンジトーク」で三次唐麵焼に来てもらいたいという事で行かせていただきました。湯崎県知事から「地元にあるものを生かしながら地元の人が生き活きと活動する、特にそれに自信を持って若者たちがやっている姿というのは非常にうれしいこと」と言っていたいただきました。

やはり地元にあるものをしっかりと見据えるというか、そこに何があるのかを意外と知らないことが多いのですが、地元のもの、足元にあるものをしっかりと見据えながら、何よりも、そこに生きるわれわれ自身がいかに生き活きと過ごすか、その姿をいかに家族をはじめ子どもたちにも伝えていくか、こういったことが大切だとあらためて感じました。

現在は、小学生対象にこういった授業もさせていただいています(写真⑫)。三次小学校の3年生で、地元の食を調べようという授業がありました。2クラスあったのですが、1クラスは三次唐麵焼、もう1クラスはワニ。ワニは



(写真⑫)小学生対象の「地元の食」授業風景

存じですか。サメですね。三次の伝統食材でワニというのがあるのですが、それについて2クラスで調べて、最終的に発表しよう。やはり子どもたちからしたら、この三次唐麵焼をまだ食べたことがない子もいましたし、そもそもこれはなぜこういうことになっているんだろとかと、いろいろなそもそもの質問を僕らもいただいて、ああ、なるほど、僕らも、なぜこれをこうしているんだろとか、あらためて考えさせていただけの時間になりました。子どもたちなりにいろいろ調べて、感想文を書いていただいたり、最後はみんなで実習をしました。

小学校、中学校の子どもたちに、ぜひ今のうちにふるさとの自慢を知ってもらって、ぜひ一度は三次から出ていったきたいと思っています。大き

な海を知り、その水源にいつかは戻ってきていただきたい。そういった中で、例えば友達とか、これからできるであろう彼氏、彼女だったり、家族だったり、そういった方々に、わが町の自慢を話せる大人になってもらいたいと思っています。三次は三次唐麵焼だけではないんですね。ピオーネもあり、さきほどのワニもあり、鵜飼もあり、アユもあり、奥田元宋・小由女美術館、ワイナリー、さまざまな分野で非常に自慢できる一品が本当にたくさんあります。その中で、子どもたちが大きくなったときに、うちの町にはこれがあるんだよ、これを食べに来んさい、これを食べに行こうや、これを見に行こうやと、そういった自慢ができる町として子どもたちにも大人になってもらいたいなと、そういう思いであります。

B級ではない！ A級でもない！

永久グルメへの挑戦

中国やまなみ街道 全線開通による戦略

中国やまなみ街道が全線開通しまして、三次も非常に便利になってきました。観光客も増えてきました。今の三次唐麵焼の加盟店に行っても、やはり島根ナンバーが多い。僕らが島根県に出雲そばを食べに行くように、島根県からお好み焼きを食べに来ていただける

方が非常に増えてまいりました。たぶん、山陽側からもたくさんの方々が観光客としていらっしやっているのは間違いないことだと。

ただ、よく言われるのが「三次のB級グルメ」という言葉です。これは、スタート当時から僕らも言い続けておりましたが、僕らはB級グルメをやっているつもりではないんですね。Aでもあります。食べものにBとかAとか付ける段階で、今の日本人は食べものをしっかりと捉え切れていないのではないかなと。これはお坊さんの立場としても申し上げたいのですが、どんな食べものであっても、ありがたいものには変わりないわけです。BとかAとかというランク付けをする発想が、今のこの三次唐麵焼にはありません。やはり永久にこの地元に根付いて、たくさんの方々が自慢できる一品になるような永久グルメにしていけることが僕らの役割です。まだまだご存じない方が多い中で、もっともっと幅広い展開をしていこうと思っています。

将来、地元を担う子どもたちへの

メッセージ

「不可能はない！」

三次の将来を担っていく、日本の将来を担っていく子どもたちには、たくさんさんのものを知っていただきたいと

もに、まずは「これは駄目だろう、これをやっても駄目だろう」というあきらめの心で物事を捉えない子どもたちになってほしい。不可能というものを自分自身でつくりたくない子どもたちを育成していくためには、われわれ大人たちが行動しなければなりません。

正直、この三次唐麴焼も、そんなのは無理だろうという人が圧倒的多数でした。三次の人は特に熱しやすく冷めやすいから無理だろうという人もいました。その中でチャレンジをして、そこで「そうだな、もう不可能だから駄目だな」とやっていたら、今、僕がこうやって皆さんの前でお話をさせていただくようなこともなかったと思います。

大人たち自身、われわれ自身が不可能というものを自分たちでつくるのではなく、可能性を追求しながら物事に取り組み、チャレンジしていく。こういった姿を、子どもたちが知るといふよりは、大人たちがやる姿をしっかりと伝えていかないといけないのではないかと思います。

ある子どもに、その小学校に行った時に「なんでやりよるん」と言われまして。「仕事をしよってんでしょ？」なんでやりよるん」と、本当に率直な質問をいただきました。その時に、「いや、われわれ商工会議所青年部はです」と難しい話をしてもしようがないです。僕はこのように伝えました。君たちに

も、いつか同じようにやってもらいたい。もしできることなら、ただ仕事をし、ああ、疲れたと言って帰るのではなくて、やっぱり地元で生きる、地域に生きる人間として、ぜひ地域活動というものを一緒にやれる大人になってもらいたい。だから、大人たちは今、こういう姿をみんなに見てもらえるように頑張っていますよ、という話をしました。

今は地域自体が疎遠な時代に入ってきていると言えはそうなのかもしれない。しかし昨日の栃木県、茨城県の水害を見ても、やはり助け合いがなければ、この世の中というものは、地域というものも存在はできないんですね。顔と顔を合わせて、アナログな状態の付き合いを大事にしていくためには、地域活動というのは非常に大切なことなのではないかと思っています。

われわれの商工会議所青年部の役割としては、実は地域活性化ということに興味・目的の中に明記をしておりません。どちらかというと地域経済の活性化というものをうたっております。最終的に地域活性化になってくれれば、言つこともないしうれいことですが、まずはわれわれの地域経済を見据えた中で、活性化、これを今、中心に捉えて活動しております。

われわれ自身が生き生きと経済活動をしていく中で、最終的に地域が盛り上がりたり、それこそ子どもたちが

「おいしいものがあるけえ食べに行こうや」と、これも地域の活性化だと思えます。ただ単に観光客を呼び込んだりするのが地域活性化ではないのかなと思っています。

この三次唐麴焼を通じて地域経済の活性化を図っていくとともに、子どもたちに向けて、青少年に向けて、この地域の素晴らしさを伝えていく作業、事業というのは、地域経済活性化と併せて、車の両輪のように非常に大切なことだと思っています。

「みんなで一緒に好み焼きを焼こう」というのは、ものすごくコミュニケーションになるものなんです。そういう好み焼きを皆で焼こうという活動を子どもたちが対象に行っていますが、和気あいあいというか、自らが分担作業をして、自らが考えながら、自らが人にお願いをしながら作業していく工程を見ると、見かけはたしかにおいしいそうではなく、焦げ目もあるし、焼けていないようなところも出てきますが、「みんなで作ったというおいしさ」は、この好み焼きならではかな、と思っていっつも見ています。広島焼はわりといろいろな工程がありますので、それを分担しながらやっていく姿を見ると、子どもたちが自ら考えながらやっている姿は非常に意味があることだと思います。

僕などはよく、三次唐麴焼をタレン

トに例えて考えるのですが、このタレントさんをどういつぶつにしたいのか、どういつ売り出し方をしたいのか、どういつ見せ方をしたいのか。出店をコンサートとして捉えると、どういつ人たちにそのコンサートに来てもらいたいのか、そのコンサートがあるよというのをどのように伝えていくか。三次唐麴焼は、まだオーディションで受かるか受からないかわからないタレントなんです。しかし、それだけに、大河ドラマのほうに行くのか、朝の連ドラに行くのか、もしくは月9に行くのか、いろいろな方向性や可能性があるのが、この三次唐麴焼というタレントさんなんです。そのタレントさんを応援していただけるファンを幅広く募っていく中で、唐麴焼を作る子どもたちは、将来のファンとして非常に大きな存在でもあります。

この事業を展開する中で、僕らも学校教育の現場に赴きます。頑張っている大人たちの姿を、その場でお好み焼きを焼ながら、背中を見ていただくと思っております。この事業を通じて自信を持てることができることもありますが、これがないと僕らもできないことです。自信を持って、この三次唐麴焼をさらに推進してまいりたいと思っています。

青少年育成は大人が生き生きと

している姿を伝えること

「頑張る大人の姿を見せる、

のではなく、見えるように」

最後に、少し個人的なお話をさせていただきます。先ほど、広島東洋カープの梵英心選手の兄とご紹介いただきましたが、「よう似とってですね」とよく言われるんです。似ていますか。でも、似ているのは僕ではないんですよ。ね。向こうが勝手に似ているだけです。兄と弟の関係ですから、僕が似ようと思っただけではないんですよ。兄と弟の関係の中で、梵という名前を覚えていただいたり、もしくは、こういう場所に呼んでいただくのも、大変ありがたいことで、そついった一つのきっかけがあるかもしれません。



関係性の話を少しさせていただくと、僕は弟がいるから兄なんですよ。弟も僕がいるから弟なわけですね。これは当たり前で、親がいるから子どもがいるというところで、子どもがいるから親がいる。その関係性というのは、非常に当たり前のように普段過ごしている中で相互関係が成り立ち、初めて兄弟、兄弟、親子というのが成り立つと思うんです。大人と子どもというふうに相互関係で見ると、どちらかがかけたら、たぶん子どもとは言わないんですよ。大人とは言わないんですよ。これは仏教で因果関係とか、縁とよく言いますが、どちらかが存在していなかったら、どちらかという名前にはならないんです。兄とも言わないし、弟とも言わない。僕がひとりっ子だったら兄にはならないですね。相互関係の中で成り立っているのが、この社会だと思っただけですね。先生がいれば生徒がいるし、生徒がいなければ先生とたぶん呼ばれないですよ。その相互関係というものは、すごくしっかり見てみると、当たり前のように、実はすごくありがたい関係性なんです。

しかし最近、その相互関係が当たり前になりすぎたのかどうなのか分かりませんが、ちょっとやわやわになっている瞬間もあるし、大人と子ども、青少年の反対語は何か分からないですが、うやわやになっているところがないか

など個人的にすごく気になります。

やはり相互関係というのは、何かしらのご縁の中で育まれていることが非常にたくさんあります。三次唐麴焼などは特にそうです。やはり食べていただく方、応援していただく方がないと私は存在しませんし、その青少年育成と捉えたときに、相互関係の中では、この大人の役割は非常に大きい一端があると思います。子どもたちだけでは何ともならない非常に大きなところ、というのは、皆さんも十分ご存じだと思います。

その中で、ぜひ皆さま方にお願いをさせていただきたいのは、生き生きとしている姿、大人が生き生きしている姿を見せていただきたい。子どもは、大人がくたばれている姿をよく見てるんですよ。できれば、生き生きとした姿を子どもたちに見せることで、やはり、相互関係の影響で、僕は子どもたちも生き生きとしていくのではないかと思います。大人たちがごまかそうとすると、子どもたちもごまかそうとする姿になるし、これは完全に鏡のようなものになるのではないかと。

僕らは何とか、生き生きしている姿を今のところ見せ続けられているかなと思う瞬間はあります。しかし、「あ、くたびれたの」と、先ほどの倉庫の前などに行ったら、みんなくたびれ果てて、こうなっている姿を子どもた

ちに見せられるかというと、なかなか見せられない姿ですが、そついったものも含めて、ぜひ生き生きとした姿を皆さま方には引き続き、子どもたちもしっかりと伝えていっていただきたい。そつすれば、将来の日本、将来の広島県、将来の三次、中山間地域、そついったところも生き生きとしていくのではないかと個人的には思っています。

ちよつとだらだらとお話をさせていただきまして、話も飛んだりしたところあつて大変申し訳ございませんが、生き生きとしていただきたいというところをもちまして、今日の講演という、このありがたい機会を閉じさせていただきますたいと思います。どうもありがとうございます。

【梵大英さん プロフィール】

広島県三次市三次町で500年続くお寺、浄土真宗本願寺派・専法寺の副住職。神奈川県のイベント会社勤務を経て2009年、三次にUターン。僧職の傍ら、三次商工会議所青年部に所属し、さまざまなプロジェクトを立ち上げるなど、三次を盛り上げる。広島カープの梵英心選手の実兄。現在、広島アスリートマガジンにて「梵大英の言わなきゃ伝わらんじゃろ」連載中など多方面で活躍。

【実践発表・交流会】

●実践発表①

青少年育成吉舎町民会議の東一也さんが三次市立八幡小学校6年生児童と共に「品の滝での夢配達人事業の取組み」について発表しました。



平成25年度夢配達人プロジェクトの応募者・長畑さんの夢は「家の近くにある品の滝を整備して、二の滝まで行けるようにしたい」でした。約1.5kmの溪谷内に3つの滝がある品の滝は、平成23年の大雪の影響で多くの木が倒れ落石があり、遊歩道が通れない状態でした。そこで森林組合をはじめ、多くの方の協力を得て、「品の滝わくわく体験」と名付け、夢の実現に向け動きだしたのです。

草刈りや不要な木を切り、道が通れるように整備しました。八幡小学校の生徒たちは品の滝へ行き、間伐材を使ってベンチやミニ monumento を作ったり、木の苗

も植えました。また植物や昆虫なども調べ、品の滝について学ぶ良い機会にもなりました。

このプロジェクトに関わったみんなが成功の喜びを感じたと共に、整備した滝や遊歩道、周辺の森をこれからも子どもたちが楽しく体験できる場所であり続けられるよう、環境を保全していきたいと思いました。また児童が自分たちの子どもを連れて遊びに帰ってくる姿を思い浮かべながら、今後とも吉舎町民会議も共に汗を流し、知恵をしぼっていきたいと思います。

●実践発表②

君田村塾の脇坂由美さんが「君田村塾の取組み」について発表しました。



平成8年、「21世紀へ子どものための村づくり」をスローガンに掲げ、君田村塾が開校しました。

私は平成14年の7月から君田村塾の事務局を担当することになりました。初めての仕事が、毎年行われていた富士登山への企画実施。そして、富士登山以降、「どうしたら子どもたちが楽しんでくれるだろう」といつとも考えるようになりまし



た。それから木工教室やクリスマスマスのリース作り、流しそつめん、料理教室、ハイキング、カヌー教室などを開催しました。

平成16年の市町村合併後は、活動の規模は縮小せざるを得ませんでしたが無理をせずできることを続けていこうと、塾長と話し合い、富士登山としまなみサイクリングを続けていくことを決めました。当初は時間が足りず、準備に手間取って参加者に不便をおかけすることもありました。

君田村塾は今年で20年になります。地域の方、参加してくれた子どもたちやその保護者の方たちの支えがあったからこそ、今まで続けてこられたのだと思います。塾長と二人三脚で今後もマイペースで続けていきたいと思っています。

●実技

NPO法人みわスポーツクラブの指導のもと、スポーツ吹き矢の体験を行いました。スポーツ吹き矢は、腹式呼吸を積極的に用いた健康法と吹き矢を融合させたもので、手軽に楽しむことができ

ます。わかりやすい指導で、参加者はみんな礼で始まり礼で終る流れを自然と受け入れ、場内はとてもよい雰囲気となりました。



●交流会

君田温泉森の泉(三次市君田町泉吉田)に移動。茂田こども音楽団の児童が太鼓や笛の演奏に合わせて華麗に神楽を舞い、会場の雰囲気が一層華やかになる中、参加者は交流を深め、情報交換を行いました。



安芸区青少年健全育成連絡協議会

AKIKU

地域の特性を生かした事業を展開 ～青少年の健やかな成長のために～

安芸区青少年健全育成連絡協議会（以下「安芸区青少協」と表記）は、各小学校区で組織する9の地区（学区）青少年健全育成連絡協議会（以下「地区青少協」と表記）で構成されています。地区青少協は、「あいさつ運動」「地域パトロール」「三世代グラウンドゴルフ大会」「異世代交流の集い」など、地域の特性を生かした事業を展開しています。

安芸区青少協では、次の二つの主な事業を実施しており、実施にあたっては、地区青少協が役割を分担し、出演者の調整や、当日の進行・運営などに当たっています。

ふれあいフェスティバル

毎年7月「青少年によい環境をあたえる運動」月間に合わせて、安芸区青少協では広島安芸地区保護司会、区役所とで安芸区青少年健全育成事業実行委員会を組織し、世代を越えたふれあいと文化の祭典「安芸区ふれあいフェスティバル」を安芸区民文化センターで開催しています。

平成27年7月5日（日）、満員の観客で埋まった区民文化センターホールにおいて、矢野中学校吹奏学部のマーチングで幕を開けました。引き続いて開会式が行われ、その後に安芸区内9地区から1団体ずつ出演する舞台発表が行われました。



舞台発表は、幼稚園児から高齢者まで幅広い世代の出演者による歌、踊り、楽器演奏、空手演舞など多彩な内容。各出演団体とも日頃の練習成果を披露していただき、最後は恒例のお楽しみ抽選会で盛り上がりしました。会場は世代を越えた皆さんの歓声や笑顔であふれていました。

安芸区青少協では、このフェスティバルが世代間の交流や、青少年と地域の絆を強める一助になればと願っております。



安芸区青少年健全育成大会

毎年11月の「青少年健全育成強調月間」に合わせて、安芸区青少年健全育成事業実行委員会では「安芸区青少年健全育成大会」を開催しており、今年度は、11月14日（土）に安芸区民文化センタースタジオで開催しました。

この大会の目玉は、中学生の意見発表です。毎年決められたテーマに沿って、区内5中学校から各1名の中学生が意見発表を行います。今回は夏休み前の6月末に地区青少協を通じて各中学校校長に中学生の推薦をお願いしました。テーマは「私と地域のかかわり」または「将来の夢」を発表者が選択します。大会当日、各中学校から選ばれた中学生は一人5分間の持ち時間で意見発表を行い、会場



を埋めた満員の観客は熱心に耳を傾けていました。また、発表後にその内容について講師の先生から、温かいメッセージを含んだ講評がありました。大会後に行ったアンケートでは、参加者から「子供たちの為に努力しなければいけないと改めて思った」「最近の子の考え方が伝わり勉強になった」「このような取組をいつまでも続けてください」などの声が寄せられました。

その他、大会の中で、長年地域で青少年育成に顕著な功績のあった17名の方々が「安芸区青少年健全育成連絡協議会会長表彰」を、また、小中学生8名が「第65回“社会を明るくする運動”作文・標語コンテスト広島安芸地区保護司会会長優秀賞表彰」を、そ



れぞれ受賞されました。

安芸区青少協では、この二つの主な事業のほか、様々な活動を通じて、これからも積極的に青少年の健やかな成長のための取組を地域と一体となって推進していきたいと思っています。

いきいき地域活動紹介

県内各地の市町民会議が、地域の特性を生かした特色あるイベントを開催しています。今回は4つの活動を紹介します。

青少年育成くまの町民会議

KUMANO

地域で協力し合える つながりのある町づくり

青少年育成くまの町民会議では、町内各種団体の協力のもと、次世代の熊野町を担う青少年の健やかな育成を図ることを目的とし、様々な活動を行っています。今回は、その活動の一部をご紹介します。

家庭読書推進事業「くまどく」 支援のための絵本贈呈

熊野町では、家庭読書推進事業「くまどく」を行っています。具体的には、週2回以上、15分以上、家族の誰かと一緒に同じ本を読んで、その感想を話し合い、専用のノートに記録を取るというものです。平成24年の全国子ども読書の日にこの取り組みをスタートさせ、テレビやゲーム、スマートフォンなどの普及に伴い、希薄となりつつある家族間のコミュニケーションを少しでも改善しようと推進しています。

昨年度からはこれまでの取り組み状況を発表する場として「くまどくフォーラム」を開催し、町内の小中学校や家庭での取り組み状況について、多くの町民に周知することができました。また、広島県教育委員会教育長様には、昨年度に引き続き、ご講演いただきました。

青少年育成くまの町民会議では、この事業を支援し、幼児期から本に親しむことを目的に、町内幼稚園・保育園に毎年、絵本の贈呈を行っています。なお、掲載された写真は、第2回「くまどくフォーラム」での贈呈式の様子です。



花の植え付け、花の贈呈を通じて 豊かな心を育む

この活動は、町内の幼稚園、保育園の園児たちが、自分たちの育てた花を持って、老人ホーム等を訪問し、利用者さんたちと交流の場を持つ事業です。

今年度は、熊野町内の幼稚園児が青少年育成くまの町民会議の委員たちと花の植え付けを行い、その後、園児が水やり等をしながら、約1ヶ月間、大切に育てました。



そして、育てた花を贈る贈呈式を町内の老人ホームで開催し、園児から利用者さんへ花の贈呈と歌をプレゼントしました。

老人ホームの利用者さんたちは、普段、接する機会の少ない園児たちと触れ合うことで、元気をもらったと、とても喜ばれ、自然と笑みがこぼれていました。

園児たちもこの活動を通じて、花を自分たちの手で育て、その花の成長を見守ること、おじいちゃんやおばあちゃんと接することで優しい心を育んでくれることでしょう。



「こども110番の家」

「こども110番の家」は、いざというときに子どもたちが駆け込む避難所として、全国各地で取り組みが行われており、熊野町でも積極的にこの取り組みを

行っています。

熊野町では、ご協力いただける事業所などに「こども110番の家」を示すステッカーをお配りしてきましたが、今年度はステッカーだけでなく、取り外し可能なタペストリーも作成しました。



さらに、子どもたちが親しみやすいよう、熊野町の住民兼観光大使キャラクターの「ふでりん」をモチーフにした図柄へ変更し、より多くの方が親しみやすいようにしました。

現在、熊野町では173軒の事業所などにご協力いただいております。これから町ぐるみで子どもたちを守る活動を続けていきます。

このように、青少年育成くまの町民会議では、青少年健全育成活動を積極的に行うことで、熊野町の更なる活性化を目指し、地域で協力し合えるつながりのある町づくりをすすめていきたいと考えています。

青少年育成大崎上島町民会議講演会を開催 インターネット利用の注意点

～Twitter・LINE・スマートフォンの危険性～



青少年育成大崎上島町民会議では、青少年のもつ重要性にかんがみ、次代を担う青少年の健全な育成を図ることを目的とし、

3年に一度講演会を開催しています。この度は、日程調整等ができず、4年ぶりの開催となりました。

今回のテーマと講師の先生の選定は、町民会議委員全員の意見で「子供たちを取り巻く環境の中で、ネット環境のことが一番心配。ぜひ子供たちにも聞かせたい!」という思いで決まりました。

町内の中学校、高校へ授業の一環として呼びかけ、10月5日に安川雅史先生をお迎えして、インターネット利用の注意点～Twitter・LINE・スマートフォンの危険性～と題して講演会を開催し、会場は満席となりました。



安川先生は、青少年を取り巻く環境でスマホ・Twitterをはじめとしたネットいじめ・ネットトラブルの実態を、実際の実例を挙げ紹介されました。

最近、子供たちの多くがLINEで実際に会話をするような文字のやり取りをし、ちょっとした言葉の行き違いなどでいじめなどが始まるケースが

増えてきているそうです。相手の顔が見えないネット上の文字のつながりでなく、顔を合わせて話すことのコミュニケーションの大切さを話されました。

また、軽はずみな投稿画像や書き込みから、知らず知らずのうちにネット上に個人情報がさらされ、友達とのトラブルや犯罪に巻き込まれたり、罪に問われることもあり、精神的に追い込まれてしまうこと。投稿画像や書き込み等は、消しても永遠にネット上には残ることを意識して絶対にしてはいけません。今までしてきた間違ったことは今日からはしない、一人で悩まない、すぐに相談することを強く訴えられました。

そうして、身近なところから自分自身の身を守るよう、中高生の利用が多いLINEを安全に使うための方法やウイルス対策の重要性を話されました。

講演会后、3年生の学級だよりで講演会の感想が届きました。「自分もLINEをするので、今日聞いたことを頭に入れて気を付けたいと思った。」「スマホなどインターネットには、たくさんの罠や間違った情報が流れていることがよくわかりました。軽い気持ちでやってはいけなかったと思いました。」「インターネットの世界は想像以上で、ネットの怖さを改めて知った。」などの感想をいただきました。

これからスマホを持つ中学生にとっては、“少し怖い”と感じたかもしれ



〈講師〉安川 雅史先生



ませんが、この講演から感じたことや学んだことを忘れないで自分自身を守ってほしいと思います。

保護者や委員のみなさんからは、講演の話に引き込まれとても役に立つ内容だった。中高生にも聞いてもらえて本当によかった。という感想をいただきました。

青少年育成大崎上島町民会議は、今後も学校・家庭・地域全体が一丸となって活動を推進していきたいと思っています。



子どもたちの安全を守る 地域目(あい)

青少年育成神石高原町民会議は、町内全域の方を対象に行う青少年育成講演会や平和事業等に加えて、旧町村を単位とした4つの地域に地区員会を設置し、子ども達の安全を守るためにさまざまな活動を行っています。

PTAが中心となって 通学路のパトロール

その活動の一つに、神石地区委員会の「巡回パトロール」活動があります。

神石地域の小中学校のPTAが中心になって、児童生徒の安全な下校が出来るよう通学路のパトロールを行っている事業です。平成16年度に町村合併が行われ、現在の青少年育成神石高原町民会議の神石地区委員会が設立されました。旧町時代に一部の地域で行っていたパトロールを、平成19年度から「巡回パトロール」として組織全体の取り組みとして引継ぎ行っています。小中学校の児童生徒の地区を中心に、巡回コースを3コースに設定して、週1回(火曜日)、できるだけまなく神石地域内の巡回が出来るように活動しています。

地域連携の「こども110番」

パトロールは、巡回パトロール割

り当て表により、保育所職員・保護者会・教師・PTA役員・小中学校保護者・地域団体から3名、地域安全推進員1名の合計4名の担当で実施しています。児童生徒の為に安心安全な地域づくりを目指して行っている活動ですが、人口減少と高齢化の進む地域ですから、地域の方にも犯罪防止にもつながると喜ばれています。また、「こども110番」のシールを役場の公用車等に貼り、町内のパトロール車として活用しています。



毎月決まった日に 「あいさつ運動」

この活動とは他に神石高原町内各地区で行われている活動に、児童の登校時に校門や街頭で行っている「あいさつ」運動があります。地域で異なりはしますが毎月決まった日に、青少年育成町民会議の構成団体の人たちが校門や通学路に立ち、児童生徒への声掛けを行っている運動です。雨の日も風の日も必ず行われ、年間を通して行われているこの活動は児童と地域・各種構成団体のコミュニケーション



ニケーションの場となっています。その活動に関連した活動として、子ども達が横断に使用する横断旗入れもの設置等、通学路の環境整備も地区役員によって行われています。

大人の愛情溢れる眼差しが 子どもたちの地域愛を育む

町内の方を講師に迎え、子ども達にお茶やお花を通してマナー教室等、公民館講座と連携して行われている活動等、人口の少ない地域では、一人何役も、また様々な方法を使って、地域の子どもの安全を見守る取り組みを行っています。大人の愛情あふれる眼差しで見守ることで、その取り組みが、数少ない子ども達と地域の人たちとの交流の場となり、子ども達の社会性を育てる場ともなっています。

子ども達が安心して暮らせる地域づくりが、子ども達の地域に対する愛着につながり、健全な育成につながっていけばと活動が行われています。



「少年の主張」・中学生話し方大会 2015

中学生が日ごろ思っていることや考えていることを発表しました。

第37回 少年の主張広島県大会 第49回 中学生話し方大会

平成27年9月19日(土) 中区富士見町 エソール広島

第37回少年の主張全国大会において 広島市立国泰寺中学校2年 藤井 志穂さんが 内閣総理大臣賞を受賞



藤井さんは「語る思いと聞く思い」と題して発表しました。広島県から最優秀賞に選出されるのは初です。

受賞後、湯崎広島県知事を表敬訪問しました。

第37回少年の主張広島県大会・第49回中学生話し方大会において広島県知事賞を受賞した広島市立国泰寺中学校2年 藤井 志穂さんが 少年の主張全国大会（平成27年11月8日 国立オリンピック記念青少年総合センター）において見事 内閣総理大臣賞を受賞しました。



湯崎広島県知事を表敬訪問

語る思いと聞く思い

広島市立国泰寺中学校 2年

藤井 志穂さん

「被爆者の高齢化が進む今、10代は経験を聴ける最後の世代です。私たちは記憶を次世代へ残していくなくてはなりません。」そう書きかけた原稿を私はぐしゃぐしゃにして捨てました。私はジュニアライターという、被爆体験を聞いて記事や感想を書く活動をしています。私は何度か取材をする内に、この活動が苦しくなっていました。

特に残っていることがありません。それまで穏やかに取材を受けていたその人は、ふいに優しい表情を崩しました。長い沈黙の後、一言。「おかあさん」と呟いてから引きつったように笑いしました。でも目は笑っていませんでした。それから人が変わったように喋り始めました。グロテスクな話も心痛い話も質問を入れるスキもない位に。

取材が終わって、じわじわと恐怖が湧いてきました。話し始めと沈黙の後との表情のギャップ。それは私が家族の被爆状況を聞いた時に起こった事なのです。あの人は隠したい所に私が触らないように、笑顔で牽制していたのではないか、私はそれを無視し一番深い傷に触れたのではないか。

私は被爆者への取材を避けるようになりました。もつこれ以上被爆者の方を苦しめたくない。苦しめてまで聞く事にどんな意味があるのか。活動に対する疑問で一杯でした。

ある日、取材の人数不足で呼ばれ久々に私は被爆体験を聞く事になりました。話し手をAさんといいます。Aさんはなぜか妹さんの事だけ話してませんでした。「妹さんはどうなったんです

か。Aさんから表情が消えました。

「妹は死にました。全身焼けて。水を、と言われたけれど垂れた皮膚が口を塞いでいて飲ませてあげられなかったんです。」

苦しい表情に私は声をあげました。「ごめんなさい！もう話さなくていいです。」

「謝らないで。私なんのために話しているかわかりますか？この苦しみを残すためです。あの地獄を思い出すと吐きそうな程悲しくなります。私はあの頃、死にたかった。友達も家族もいなくなつて。でもその先の人生を歩む内に、死んだ皆の幸せも叶えるために生きているのだと思うようになりまし。でも私の人生だけでは足りないです。そのために私ができるのは、辛い経験をもつ他の人にさせない事。あなた達の未来を守りたい。どうか、忘れないで。」

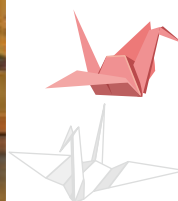
圧倒されました。そして恥ずかしくなりまし。苦しんででも話す」という決意に今まで私は気付かなかったのです。語る側の熱い思いに對し、「苦しめているのでは」という聞く側の心配はなんてちっぽけだったのしょう。

家に帰った私は、投げ捨てていた



広島県大会の出場者の皆さん

原稿を広げ書き直しました。「私たちは記憶と共に、その記憶に刻み込まれた一つ一つの苦しい経験と反戦への強い思いを引き継いでいなくてはなりません。」



受賞名	中学校名		氏 名	題 名
広島県知事賞/少年の主張全国大会内閣総理大臣賞	広島市立国泰寺中学校	2年	藤井 志穂	語る思いと聞く思い
(公社)青少年育成広島県民会議会長賞	府中町立府中中学校	3年	山口 夏鈴	聞こえる世界で知ったこと
広島県中学校話し方連盟会長賞	広島市立二葉中学校1年	1年	牟田悠一郎	僕と平和
国際ソロプチミスト広島会長賞	広島市立中広中学校	3年	松陰 未羽	命の揺れ
広島清流ライオンズクラブ会長賞	広島県立広島中学校	2年	宮尾日菜子	届けよう
優秀賞	安芸高田市立美土里中学校	3年	齋藤 杏実	被爆70年、私たちの使命
優秀賞	江田島市立江田島中学校	3年	秋村 日菜	一枚の紙
優秀賞	竹原市立賀茂川中学校	3年	中前 愛泉	心の支え
優秀賞	山陽女学園中等部	3年	井元 遥花	バナナの輪
優秀賞	呉市立阿賀中学校	3年	森山 敬仁	明日へのキックオフ
優秀賞	広島県立広島中央特別支援学校	3年	田村 愛優	伸びゆく私
優秀賞	広島市立宇品中学校	1年	山田 太治	何時か

主催：公益社団法人青少年育成広島県民会議・広島県中学校話し方連盟

独立行政法人国立青少年教育振興機構

協賛：国際ソロプチミスト広島・広島清流ライオンズクラブ・(公財)広島青少年文化センター

「子ども・若者育成支援強調月間（11月）」 あいさつ・声かけ運動 街頭啓発キャンペーンの 実施について

～あいさつ・声かけ運動の広がりを目指して～

1. 概 要

県内各地で取り組まれている「あいさつ・声かけ運動」の更なる広がりを目指し、子ども・若者育成支援強調月間（11月）に、JR広島駅など県内3会場で街頭啓発キャンペーンを行います。

2. 目 的

次代を担う子供・若者が、夢や希望を豊かに育み、心身ともに健やかに成長することは県民すべての願いであり、家庭・学校・地域社会等が一体となり、地域ぐるみで子供・若者を育成することが重要です。

大人が子供・若者と向き合い、理解しあう姿勢を持つことが必要であるという視点から、コミュニケーションの第一歩である「あいさつ・声かけ」の輪を広げ、県民総ぐるみ運動となるよう、重点的にキャンペーンを実施します。

子ども・若者育成支援強調月間に合わせて11月に
県内3カ所で「あいさつ・声かけ運動」を実施しました。

～街頭啓発に参加いただいた団体～

11月4日 広島駅

- 公益社団法人青少年育成広島県民会議
 - 広島市青少年健全育成連絡協議会
 - 広島市地域女性団体連絡協議会
 - 広島市子ども会連合会
 - 広島県高等学校PTA連合会
 - 広島県少年補導助手員連絡協議会連合会
 - 広島市教育委員会
 - 広島県議会 ○広島県
 - 広島県教育委員会 ○広島県警察
 - 中国運輸局 ○交通関係事業者
- ほか



11月5日 西条駅



- 公益社団法人青少年育成広島県民会議
- 青少年育成東広島市民会議
- 広島県少年補導協助手連絡協議会連合会
- 東広島市議会 ○東広島市教育委員会
- 東広島市 ○広島県
- 広島県警察 ○中国運輸局
- 交通関係事業者
- ほか

11月6日 福山駅

- 公益社団法人青少年育成広島県民会議
- 公益財団法人福山市青少年育成事業団
- 福山市青少年育成員協議会
- 福山市中央青少年育成員協議会
- 広島県少年補導協助手連絡協議会連合会
- 福山市 ○広島県議会 ○広島県 ○広島県警察 ○中国運輸局
- 交通関係事業者
- ほか



※広島県が行う「広島県麻薬・覚せい剤乱用防止運動」及び中国運輸局等が行う「マナーアップさわやか運動」と連携して実施しました。

家庭で取組んでいただきたいこと

- 基本的な生活習慣としてのあいさつ・声かけの励行
～おはよう。おやすみ。いただきます。ごちそうさま。いってきます。いってらっしゃい。
- 家族揃って食卓を囲むことの励行
～食卓を囲んでの会話から、子どもの変化が感じられます。

学校で取組んでいただきたいこと

- 登下校時、学校内でのあいさつ・声かけの励行～通学路、校門、ホームルーム等
- 保護者に対する啓発活動～通信文、保護者会等を活用して

市町等で取組んでいただきたいこと

- 広報紙・会議・集会等での呼びかけ
- 関係機関・団体への協力要請

地域で取組んでいただきたいこと

- 登下校時等における声かけの励行～地域で子どもを育てる
- 地域住民が集い、声がかかけあえる場づくり～町内会行事・子ども会行事等への積極的参加の呼びかけ

事業所で取組んでいただきたいこと

- 店内での声かけの励行～いらっしゃい。お帰り。今日は早いね。早く家に帰ろう。

青少年育成カレッジ「総合講座」の紹介

青少年育成広島県民会議では、公立大学法人県立広島大学と連携して、平成19年から「青少年育成カレッジ」を開講しています。青少年の心や行動、生活を多角的に理解し、時代や青少年のニーズに対応した育成・指導ができる青少年指導者等を養成するための総合講座です。今年度は11月28日(土)、12月5日(土)に、サテライトキャンパスひろしま5階 505中講義室(広島市中区大手町一丁目5-3 広島県民文化センター)で行いました。

※詳しくはHPをご覧ください。 <http://www.hiro-payd.or.jp>

第1回 平成27年11月28日(土)

■ 講義

「発達障害の特性がある青少年の理解と支援 ～発達外来のめざすもの～」



林 優子 さん

県立広島大学保健福祉学部 作業療法学科 教授
県立広島大学附属診療センター長、小児科医師



【行動や感情のコントロールが難しい人への支援】

落ち着きがなく気が散りやすい人は、周りから「わがまま」「やる気がない」と否定的に評価されています。できないことを叱る前に、なぜできないのか、どうしたらできるようになるのかを、一緒に考えることが大切です。講義と事例検討により、適切な対応を考えていきます。

【コミュニケーションが難しい人への支援】

マイペース・空気読めないといわれる人は、実は、自分が困っていることを上手に伝え、助けを求めることができません。社会の中で、お互いに理解し合い気持ちよく過ごすことができるために、講義と事例検討により適切な対応を考えていきます。

第2回 平成27年12月5日(土)

■ 講義

「発達障害の特性がある青少年の理解と支援～発達を応援する作業療法～」



土田 玲子 さん

県立広島大学保健福祉学部 作業療法学科 教授
作業療法士



【発達障害児に対する感覚運動遊びを利用した支援の考え方】

大人は子どもの遊びを軽視したり、抑制する傾向がありますが、実は子どもにとっての遊びは発達上重要な意味がある活動です。その意味と重要性について、感覚統合理論の視点から概説し、発達障害がある子どもの遊び活動の特性を整理します。

【感覚運動遊びの実際】

発達障害がある子ども達の指導の考え方を整理し、感覚運動遊びの特性について演習を通して分析します。

■ 「認証状」授与式

青少年育成カレッジでは、所定の20単位(1講座1単位)を修得された方に、学習したことを評価して「認証状」を発行しています。
これまでに49名の方が修得されていますが、平成27年度は新たに7名の方が修得されました。





● 講師
林 優子さん

PROFILE

【はやしゆうこ】

県立広島大学保健福祉学部 作業療法学科 教授
県立広島大学附属診療センター長、小児科医師

青少年育成カレッジ講師の寄稿①

発達障害の特性がある青少年の
理解と支援
～発達外来のめざすもの～

1 困った子どもではなく、
要求に応えることができず
困っている子ども

平成17年に発達障害者支援法が施行されて10年が経過しました。子どもに関わる関係者の中では、発達障害という用語が広まってきていますが、まだ、捉え方に差があります。

私は、県立広島大学保健福祉学部附属診療センターで発達外来を担当し、1年間に約800人の子どものための診断や治療を行っています。今回は、その診療で特に心がけている『子どもたちの思いを理解し、寄り添い育むことの大切さ』をお伝えしたいと思います。

まず、押さえておきたいことは、発達障害というと子どもだけに問題があるように考えてしまいがちですが、『子どもが障害ではなく、子どもの状態と環境条件がミスマッチのため、要求に応えることができず困っている状態』と理解することが重要です。どの子ども、皆と同じ活動をやり遂げて喜びたいのです。しかし、十分にわかっていないことや、発達上のにがてさに気がついてもらえず、失敗したり、叱られたりしてばかりいて困っているのです。多動・衝動性・不注意、コミュニケーションがにがて、不器用・低緊張、学習困難、感覚過敏の子どもたちが、どのように困っているか図1～5に示しました。そのような子どもたちは『支援ニーズがある子ども』なのですが、にがてなところがある

図1 多動・衝動性・不注意

じっとできなくて困っている！
待つことができなくて困っている！
いろいろな刺激が気になって困っている！
相手の言葉が聞き取れない！
覚えられない！
頭の中が整理できない！
何から手をつけていいかわからない！
興奮がおさまらない！
わがままと叱られる！



図2 コミュニケーションがにがて

社会のルールがわからず困っている！
気持ちが切り換えられずに困っている！
うまくやりとりできずに困っている！
日頃と違うと、どうしていいかわからない！
困っていても助けてと言えない！
いやでも断れない！
相手の表情がよみとれない！
説明されてもイメージができない！
嫌だったことを急にはっきり思い出す！
また困るのが不安！こわい！



図3 不器用・低緊張

身体をうまく使えず困っている！
 遊具・暗いところ・高いところが怖くて困っている！
 手先が思うように動かせず困っている！
 姿勢が保てず困っている！
 体操でまねできなくて困っている！
人よりがんばっているのに、
わかってもらえない！
 できないことで笑われる！
 とても疲れて長い間続かない！
怠けていると叱られる！



図4 学習困難

中核群 発達性読み書き障害(ディスレキシア)

知的発達は良好で努力もしている
 しかし、文字の読み書きに障害がある

書いてある文字がよく読み取れない
 文章は読めるが意味がわからない
 計算ができない 鏡文字
 文字や図形をまねして書けない
 つとつ、aとdの区別がつかない
努力が足りないといわれる！



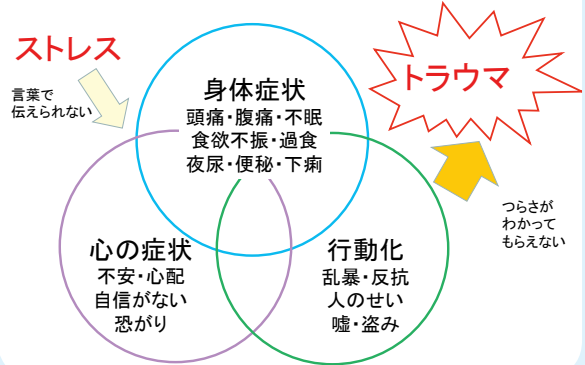
図5 感覚過敏

特定の音が耐え難いほどうるさい！
 光がまぶしすぎる！ 目が痛い！
 触られるとひりひりする！髪や爪を切っても痛い！
においや味で気分が悪く、ふらふらになる！
 眠っていてもぐっすり
 ねむれない！
 また、無理強いされる！
もっと苦しいことがあるか
と思うと不安！こわい！
我慢が足りないと
叱られる！



だけでなく、それ以上に下線を引いた
 ような理解してもらえないことで困っ
 ています。困っている状態は子どもた
 ちにとって大変なストレスですが、う
 まく言葉などで伝えられませんか。スト
 レスが過剰になると、SOSを子ども
 たちは図6のようないろいろな症状で
 訴えます。したがって、心身症状・精神
 症状・不適応行動が出たときには、まず、
 子どもが自分を肯定し、毎日の生活に
 満足しているかを確認する必要がある
 ます。つらさがわかってもらえずスト
 レスが蓄積すると、トラウマ(心の傷)
 になる危険もあります。

図6 困ったときのSOSの症状



3 歳児健診や5 歳児健診の通知が来

2 早期に子どもの困り感に
 気がつき、早くから継続的に
 支援をする

子どもたちを叱る前に、まず、子
 どもの立場になって、『Look 見て！
 Listen 聞い！ Feel 感じて！』くだ
 さい。そして、今何に困っているか、なぜ
 そのような行動をするのか、その理由
 を『Imagine 想像して！』で伝えよう(図
 7)。

図7 子どもの立場になって

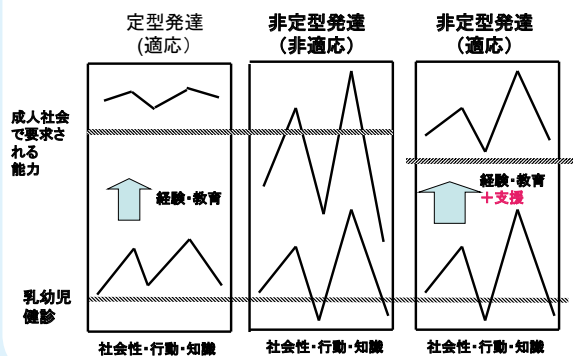
- ♥ Look 見て
- ♥ Listen 聞いて
- ♥ Feel 感じて
- +

♥ **Imagine**

行動の理由を想像して

た時に、ひっかかったら困る、ひっか
 からないためにどうすればよいかと気
 をもむ保護者がおられます。本来は、子
 どもの支援のための健診ですが、保護
 者としてはそこで何か言われることは、
 子どもがダメと否定されることと受け
 取られるようです。そうではなく、気が
 つかなかったことに気づいて、子ども
 が社会の中で生きていく力をつける支
 援をしていくための機会なのです(図
 8)。3 歳児や5 歳児健診では、一応そ
 の年齢ではできてほしいと、子どもに
 求められる基準線があります。健診の時
 点ですべての基準線を越しているお子

図8 発達障害の支援の考え方



さんは、通常の教育と経験により、18歳になれば、社会の中で適切に生きていく力をつけていくだろうと想定されます。

その基準線のところまでできていなかったり、凸凹が大きかったりする場合に、得意な部分のみに注目し、にがてなところを見逃してしまつと、せっかく得意なところが伸びても、社会人として求められる行動が適切にできないために、人間関係や仕事がつまみかなくなる場合があります。健診を受けることで、弱いところがわかると、通常の教育と経験に加えて適切な対応

3 自分の個性を生かして、自己肯定感を持って社会の中で豊かに生きるために

どの保護者も、将来子どもが幸せになって欲しいと願っていますが、子育て中の忙しさの中で、できないことばかりに注目して、つい責めて叱ってしまいます。しかし、ただ大人の言いなりで、ひたすら我慢して人に合わせているだけよりも、自分で目標を決めて挑戦し、失敗しても次に備えて工夫する

や療育をすることで、不得意な部分もカバーできるようになります。大人になった時には、求められる要求を見極め、その人に合った職場を選ぶことで、少し個性的なところはあるかもしれないが、その人らしい適応した社会生活を送ることが出来ます。健診では問題ないと言われていても、幼稚園・保育園・学校生活でうまくいきにくいと感じた場合は、課題解決を先送りにせず、関係者が発達支援という視点で、子どもの困り感を理解して、早期に心を一つにして取り組むことが大切です。

図9 支援者としての行動

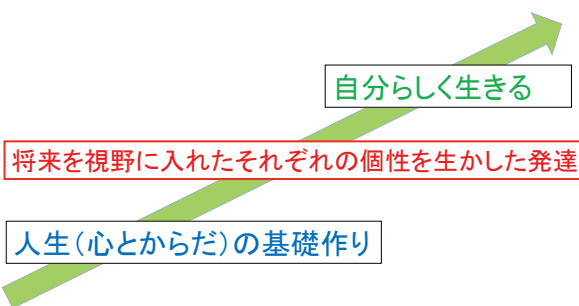
- ♥ Calm 穏やかに
 - ♥ Close 近づいて
 - ♥ Quiet 短く
- ↓
- 子どもが行動
- ♥ Follow 肯定的なフィードバック

このの方が優先されると思います。世の中は、必ずつらいことや苦しいことがあります。困難があっても乗り越えていく『レジリエンス』と、誰でも不得意なところはありますが、前向きに進む気持ち『モチベーション』があれば、自分の人生を適切に選択していくことができます。

子どもたちが育つためには、支援者の声かけが大切です。『Calm 穏やかに！ Close 近づいて！ Quiet 短くわかりやすい言葉で！』適切な行動を伝えてください。そして、子どもが行動できたときに『Follow 肯定的にフィードバック！』

図10 発達障害児の支援(一貫性・継続性)

乳児期 幼児期 学齢期 思春期 成人期



をしてください(図9)。

人との比較や競争ではなく、それぞれの個性を生かした発達をして、将来自分らしく生きることがその人の幸福ではないでしょうか(図10)。まわりの大人の理解で、子どもたちが、今も将来も、自己肯定感を持って社会の中で豊かに生きることを心から願っています。

青少年育成カレッジ講師の寄稿②

子どもの遊びを応援しよう



● 講師
土田玲子さん

PROFILE

【つちだれいこ】

県立広島大学保健福祉学部 作業療法学科 教授
作業療法士

私は福島の子どものための発達支援に関わっていますが、一時子どもたちが外で遊べず、家の中で遊んで過ごすことが極端に多くなった時期があります。(今でも一部の地域ではそのような状況が続いています。そこで子ども園の園長先生が興味深い話をしてくださいました。子どもたちの体力がぐっと落ちただけではなく前歯を折るような怪我が増えたということです。これは転びやすくなっただけではなく、転んだ時にとっさに前に手が出るのが遅くなったことを意味します。このように子どもの育つ環境が変わり、元気に外で身体を思い切り使って遊べる機会が少なくなったことが、子どもの発達に大きな影響を及ぼしているのです。

1 感覚統合理論とは？

私は作業療法士として、様々な目的で子ども達の遊び活動を支援していますが、この遊びの意義を説明する考え方の一つに感覚統合理論があります。私たちの脳は、身体の内から送られてくる様々な感覚情報を意味ある情報として整理し、環境に適応したり働きかけたりする働きをしています。脳の発達にとって、このような感覚情報は大切な栄養源であると考えられます。幼いネズミを使った実験で、狭いケージであまり動けない環境と広いケージに複数のネズミと共に遊具を入れた環境で育ちの違いを調べたところ、脳の重さや、学習能力に大きな差が見られたことが報告されています。



前庭感覚情報を脳にたくさん提供して、姿勢やバランスを育てています。

感覚統合の研究では、様々な感覚の中でも特に動く感覚(前庭感覚)、筋肉や関節の感覚(固有感覚)、触る感覚(触覚)の三つの感覚の働きの重要性に着目しています。これらの感覚情報は、普段ほとんど無意識に使われていてその重要性に気づきにくいからです。

前庭感覚は、耳の奥にあって頭の動きや傾き(重力の方向)を感じ取っています。ここからの感覚情報は、姿勢保持やバランスのために使われるだけではなく、頭が動いた時の目の動きの調整や空間知覚、身体を動かすときのリズムやタイミングなどの順序性等の発達にも関係しています。

固有感覚は、筋肉や関節の動きの感覚で、自分の身体がどのような位置にあるのか、どのような格好をしているのか、またその時の力の入り具合を脳に伝えていきます。また、この感覚は脳の活動状態や情緒をいい状態に調整する役割もあります。

動く感覚栄養の発達の役割

- | | |
|------------|---------------|
| ○抗重力機能の発達 | |
| 筋の緊張 | 脳機能の左右分化と両側統合 |
| バランス | |
| 姿勢の制御 | 情緒的安定 |
| ○重力に対する安心感 | → 注意 |
| ○覚醒と沈静 | 視空間知覚 |
| ○眼球運動 | 情報の継次的処理 |

触覚からの情報は、よく子育てでスキップが大切だと言われるように、子



このように上手にロープを渡るためには、自分の手足がどう動いているか見なくともわかる必要があります。この情報を脳に届けているのは主として触覚と固有感覚です。これらの情報を基にして子どもはうまく自分の手足を使いこなすことができます。

筋肉の感覚栄養の発達の意義

- | | |
|------------|----------|
| ○感覚入力の調整 | (視知覚) |
| ○運動の調整 | 情緒の安定 |
| ○覚醒の調整 | → 運動の器用さ |
| ○身体イメージの形成 | 注意 |
| ○情動の調整 | |



泥遊びも大切な触覚情報を脳に提供する活動です。

触覚栄養の発達の意義

- | | |
|-----------|---------|
| ○触覚的外界探索 | 触知覚 |
| ○情緒的安定 | 情緒 |
| ○覚醒の調整 | → 注意 |
| ○身体感覚 | 運動の器用さ |
| ○人との情緒的交流 | 人との信頼関係 |

どもの情緒の安定や人との信頼関係を育てる役割があります。また、自分の身体イメージを作るためにも重要な情報の一つです。

2 発達障害と感覚統合

発達障害がある子どもたちの中には、触られたり抱かれたりするのを嫌がったり、洗髪や散髪、歯磨きなども苦手な子どもがいます。さらには、着替えや入浴、大勢の子どもたちの中にいることさえ苦痛に感じる子もいます。このような状態を感覚統合の言葉では感覚調整障害と呼びます。一方、感覚情報うまく脳に取り入れるのが難しいように見える子どもたちもいます。これも感覚調整障害の一種で、このような子どもたちは、絶えず何かに触っていたり、身体が動いていたり、学校や保育園ですぐ上履きを脱いでしまったり、高いところが好きでよじ登ったり飛び降り遊びを好んだり、ブランコを大きく揺らすのが大好きです。このような行動を感覚欲求行動と呼び、自分の脳に必要な感覚情報を一生懸命自分で取り入れようとしていると理解できます。

また姿勢が悪く、片足を折ったり椅子をがたがた揺らしながら授業を受けている子どもたちもよくいます。さらに無器用で字を升目の中にきちんと入れて

書くのが苦手だったり、絵や工作、身の回りのものを整理するのが苦手だったり、服や靴下、靴の着脱にとても時間がかかる子どもたちもいます。このような状態を感覚統合の言葉では、行為機能の障害と呼びます。行為機能とは、自分の身体を目的や環境に合わせてうまく使いこなす能力のことです。

3 感覚統合理論からみた 子どもの行動理解と支援

このような視点で子どもの行動を見ると、様々な子どもたちの行動の謎が解けるように思えることがたくさんあります。

例えば教室を飛び出してよく階段の踊り場の隅に隠れていたり、カーテンにぶら下がったり、棒を振り回して遊ぶ子どもの行動を考えてみましょう。この子どもは、刺激を避けて、静かな空間に逃げることで高ぶった神経をなだめようとしているかもしれません。また、カーテンにぶらさがるのも、棒を振り回すのも固有系の活動です。このような感覚情報を脳に送り込むことで、自己調整をしているとも考えられます。

そう考えると、ただこの行動を禁止するのではなく、カーテンにぶら下がる代わりにロープにぶら下がることを提案したり、棒を振り回す代わりにお米が入った袋を膝に乗せたり、重たい荷物を運んでもらうお手伝いをしてもらうなど、子どもが必要としている感覚をいい形で提供するという支援を考えることになります。

また、椅子をがたがた揺らしながら授業を受けている子どもたちも、行儀が悪いと考えるのではなく、身体が重力に負けやすかったり、感覚情報が脳に届きにくいので、前庭感覚情報をもっと必要としていると考えることもできます。そう考えると、ただ叱ってしつけようとするのではなく、身体をしつかり使う活動を積極的に取り入れたり、椅子の上にエアークッションをひいてからだが軽く動きやすいように支援することが、子どもの良き応援団としての役割になるわけです。



保育園でフェンスにより登って困る子どもの為にロープ遊びを提供したら、ほかの子どもたちも喜んで遊んでいます。

4 遊びの応援

このように考えると、様々な感覚栄養を子どものニーズに応じて豊かに提供できる遊びがいかに子どもの発達にとって大切な、改めて理解できると思います。ブランコや滑り台は、多くの子どもたちにとって前庭感覚を取り入れることのできる遊具ですし、鉄棒や登り棒は固有感覚、砂遊びや泥遊びは諸感覚を豊かに取り入れることのできる古典的な遊びです。現在、日本の公園ではブランコや砂場が撤去されつつありますが、このような遊びの意義を改めて理解し、

安心して子どもたちにたくさん遊びを提供できる時間や環境を作るのも私たち大人の役割だと考えます。



モンテリオール市内の公園

毎月17日

青少年の日

毎月第3日曜日

家庭の日

11月1日～11月30日

子ども・若者育成支援強調月間

青少年育成広島県民会議とは…

青少年育成県民運動の推進母体として、昭和41年の設立以来、次代を担う青少年の健全な育成を図ることを目的にさまざまな事業を行ってきました。

昨今の複雑多様化した青少年をめぐる問題に、国、県、市町の行政や青少年団体など関係機関と連携し、県民総ぐるみの育成運動として取り組んでいます。あいさつ・声かけ運動、少年の主張、夢配達人プロジェクト事業、青少年育成カレッジなど幅広い内容です。平成20年の法改正に伴う申請手続きを済ませ、平成23年度に公益社団法人に移行しました。

〈概 要〉

設 立 昭和41年12月7日

法人格取得 平成2年10月21日

認 定 日 平成23年3月22日

育 成 基 金 5億円(平成3年度設立)

会 長 上田宗岡(茶道上田宗箇流家元)

(公) 青少年育成広島県民会議

〒730-8511 広島市中区基町10-52

広島県環境県民局県民活動課内

TEL 082-513-2742

FAX 082-511-2173

<http://www.hiro-payd.or.jp>

会員加入のお願い

私たちがそうであったように子どもたちはやがて大人になっていきます。青少年が夢を持ち、健やかに成長し、自分が育った地域を愛し、社会を構成していくことは私たち全ての願いです。そのための活動を県民運動として取り組んでいます。

県民の皆様方に会員になっていただき、この活動へのご支援をお願いしております。活動の内容は、『はぐくむ』の中をご覧ください。

■賛助会員

会費／個人 年額1口 1,000円

団体 年額1口 10,000円

■正会員

会費／個人 年額1口 3,000円

団体 年額1口 5,000円

- 何口でも結構です。
- 機関紙「せとのあさ」、情報誌「はぐくむ」をお送りします。
- 会費の納入方法などは、事務局までお問い合わせください。

銀行
振込先

広島銀行県庁支店

口座番号／(普通) 233251

口座名義／(公) 青少年育成広島県民会議



広島県の青少年のマスコット

ゆっぴー

「ゆっぴー」は、府中町の小学生が太陽とライオンをモデルに、“元気に明るく育つ青少年”をイメージしてデザインしました。

☆あいさつ☆は 心のドアを 開くカギ

あいさつは人と人の心のつながりを
深めるきっかけとなります。
まずは大人のわたしから「声かけ」。
子どもたちに、見守られている
安心感を与えることが大切なのです。

おはよう



広島県の
青少年のマスコット
ゆっぴー